

# あ い さ つ

公益社団法人香川県看護協会

会長 安藤 幸代

風薫る初夏の季節となりました。

いつも看護協会活動にご支援ご協力、ご参加を賜り感謝申し上げます。

2年を経た今も依然として変異しながら拡大・継続している新型コロナウイルス感染症に対応されている皆様に敬意と感謝を申し上げます。

隣国中国では平和の祭典である冬季オリンピックが開催され、ウクライナでは、ロシアからの侵略戦争が勃発しており、罪のない人々が犠牲になっているニュースに胸が痛み、一日も早く戦争が終結することを願っています。

さて、令和3年度の香川県看護協会事業はコロナ禍で可能な形をその都度香川県の対処方針に則り実施しました。例えば、研修は感染状況に応じて参集したり、オンラインにすることにより計画通り実施できました。長期間の研修は、認定看護管理者教育課程研セカンドレベル・サードレベル、実習指導者講習会を実施し無事全員が修了できました。

令和3年度の重点課題の取組みについて報告します。

支部活動については、7支部合同で「コロナ禍における看護職のメンタルヘルスケア」について、和洋女子大学看護学部准教授 寺岡征太郎先生からの基調講演のあと、支部毎の会場で交流会を実施、他施設と情報共有する機会となりました。スタッフのメンタルサポートに役立つ内容や新型コロナ感染症についての知識を深め、他施設の対応について学べたことで自施設でのあり方が確認できたようでした。

香川県助産師出向支援導入事業が令和4年で10年目を迎えることとなり記念事業を実施しました。日本看護協会福井トシ子会長から「助産師に期待すること」と題して基調講演をいただきました。また、香川県助産師出向支援導入事業を振り返り、コロナ禍でも出向に参加した病院や実際に院内助産で出産体験をした看護職などから報告がありました。出向は助産師の就業場所偏在の是正だけでなく、互いの交流や実践力の強化などにつながっています。今後も継続していきたいと考えています。

3月5日には事業活動実践報告会を開催しました。支部活動報告、実態調査結果報告、看護業務の改善・働き方改革に取り組んでいる先進事例や実践報告があり興味深い内容でした。明日からでも取り組める内容は参加者の熱い質問からも伺えました。

さらに、コロナに関する事業を継続して実施しました。昨年から引き続き、クラスターが発生した病院や施設への感染管理認定看護師派遣、コロナの相談業務を主とするコールセンターや軽症者等宿泊療養施設や香川県大規模ワクチン接種会場等への看護職派遣をしました。業務に従事していただいた方々はもとより派遣に協力していただいた病院等の皆様に感謝申し上げます。

令和4年度は、次の4つの重点課題を掲げそれを達成するために10の重点事業を進めていきます。重点課題1.看護の機能強化、2.専門職としてのキャリア継続支援、3.看護職の役割拡大の推進と人材育成、4.地域における危機管理体制の強化等、専門職として看護の発展を目指し、関係者の合意を十分に得たうえでの日本看護協会との連携の中で継続して取り組むべき5

つの事業を課題として整理し、引き続き着実に取組みます。

総会でご報告しご意見をいただき進めていきたいと考えています。しかし、まだまだ、感染状況が不確実なため例年よりも少ない人数で令和4年度の総会を実施します。会員の皆様にはご迷惑をおかけしますが、ホームページ等で報告させていただきますのでよろしくお願い致します。

看護が注目されている今こそ、看護職の役割を正しく認知していただき、看護の価値を高められるよう看護専門職能団体として進んでいきます。今後ともご支援ご協力よろしくお願い致します。